

2021年11月23日 「会員、及び、サークル活動」 ページに掲載

茶の湯サークル活動のお便りが届きました。毎月、楽しくお茶を楽しんでいる様子が伺えます。皆さんも、参加されては如何でしょうか？

「お月見のお点前を楽しみました。」

10月31日、同じ月に2度目の満月(ブルームーン)の夜、月見の長板のお点前を楽しみました。最初は先生のお手本で数服点てていただき、その後順番にお点前を。

事前にお稽古はしていたものの、「?!次はどうするんだっけ?」の連続で先生から「教え甲斐があること!」と言われてしまうほどスムーズではないお点前なのですが、それぞれが一生懸命にお茶の心を少しでも身に沁みこませようと頑張っています。もちろん(?)もう正座が出来なくて、立礼でのお茶です。毎年お月見のお点前は向山庭園の部屋を借りて庭園に浮かぶ満月を楽しんでいましたが、今年は大泉の櫓を拝借して、お点前の合間に大泉の高層ビルと街の灯の上に浮かぶ月を鑑賞しました。庭園からの眺めはそれこそ趣がありますが、街中の月もなかなか風情があるものです。

空は快晴、雲一つなく、今宵は月に二度目の満月、今年最少の満月、しかもすぐ側に火星が赤く輝いている、さらにハロウィーンと重なる46年ぶりの満月。珍しさに加え、ブルームーンを見ると幸せになれるという言い伝えもありワクワクしながら空を見上げました。本当に少し小さめの満月が煌々と大泉の空に輝いていました。街の明かりを全部消しても月明りで十分なくらいの輝きでした。月の光をよく「青白い」と言いますが、緑色と金色を合わせた色に近い光のように思いました。その暖かさに満ちた月の光から、ふうっと東北大地震の後の計画停電の夜の月もこんなだったなということを思い出しました。ちょうど夜間に停電の番の日、何気なく外を見ると明るいのです。「あれ?停電だよなぁ」と玄関を開けると、街灯がともっているよりも明るい…。金色のような緑色のような暖かい色に満ちた道路が幻想的な雰囲気を目に入ってきました。街路樹も庭木も路面の色も輝いていて、月の光のすばらしさを感じたひと時だったなあ、つらい時ではあったけれど貴重な経験でもあったとなあと思い、災害から間もなく10年が経とうとしています、あの時の被災者の方々の痛みもその後の努力をけして忘れてはいけないとしみじみと思いが湧いてきました。ブルームーンの美しい夜に、一時感傷にも浸りましたが、長板の点前を先生に教わりながら心静かに?おいしくなあれ!と茶筌を動かしていると「ふわっ」とお茶の良い香りが立ってきます。至福の瞬間!と私は勝手に思っているのですが、ちょっと嬉しい瞬間です。お客様においしく召し上がっていただけるように心を込めて。

こんな風に私たちは「いずみ会流」に気楽にお茶を楽しんでいます。もちろん今はマスクに換気、ソーシャルディスタンスに消毒等コロナ対策にも気を配りつつ。当初は7期の本道さん、現在は10期の野口さんが先生です。何度やっても忘れちゃう…手間のかかるおじさま、おばさまたちを根気よく楽しく教えてくださっています。お茶の一福(一服)は口福(幸福)。伝統と歴史の重みも感じつつ、心静かにお点前、そしておいしいお茶とお菓子、おしゃべりを楽しみながら遊ぶ(学ぶ)のも面白いものです。湯気の先には様々な景色が広がっていきます。ぜひ一度お出かけくださり、この雰囲気を味わっていただきたいです。お気軽にお茶をいただくだけでも覗いてみてください。

茶の湯サークルは基本毎月第2月曜日と第4木曜日13:30から櫓ににてお稽古しています。izumikai@v7.com に一度ご連絡ください。

